

令和6年度
温知学舎
上祖師谷中学校

関係者評価委員会報告書



温知学舎 世田谷区立上祖師谷中学校

令和6年度「学校関係者評価アンケート」の集計結果に基づいて、学校関係者評価委員会において検討・評価した意見をまとめ、本報告書を提出する。学校は、以下の点に留意して、今後の学校教育活動の改善を図るよう期待している。

なお、本委員会では、肯定率（アンケートの「A、とても思う」と「B、思う」の選択率を合計したもの）を指標にしている。詳細なアンケート結果及びその考察については、「令和6年度学校関係者評価アンケート結果」を参照していただきたい。

〈はじめに〉

アンケート項目に「キャリア未来デザイン教育」、「せたがや探究的な学び」の内容が多く含まれており、教育の質の転換が学校に求められている。また、今回のアンケート回収については、昨年度に続き、QRコードによるアンケートフォームを使用したことにより、アンケート実施を効率的に進めることができた。しかし、保護者の回収率が53%、地域の回収率が34%となっているため、今後、回収率のより一層向上させる努力を期待する。

この点に関して、本委員会では、学校ホームページの多くの閲覧数や生徒アンケートから見られる一定の高い評価を考慮したときに、それに見合う回収率を得るために、保護者及び地域の関心を高め、効果的な教育活動の発信が必要であるとし、その観点から、期間限定での授業風景の動画公開や公開授業のあり方の工夫といったこと等の話し合いがなされた。保護者や地域との「縛やつながり」を深め、上述の工夫を行いながら、現在の学校の様子や生徒の姿を地域社会に積極的に紹介し、保護者や地域住民が学校行事等に参加しやすい機会を作りながら、学校教育への参画を促していく。今後、コンプライアンスへの対応、その他、様々な意見がある中で、より一層の工夫を行っていくことは、容易なことではないと思われるが、今後も生徒のために学校の努力をお願いしたい。

1 学習指導（授業）について

生徒評価「先生は、課題について、自分で考えたり友達と考えたりする時間を探業の中でとっている」94%、

生徒評価「授業では、考えたことを話し合ったり、発表する機会がある」96%

保護者評価「子どもが考えることや、課題を解決することを大切にした授業をしている。」66%が肯定的な評価である。

ICT機器の効果的な活用についての肯定的意見が多く、「学習の多様性・主体性に配慮した」ICT活用教育の充実が図られている。全体的に見て、生徒の肯定的評価が得られているのは、先生方の「教育DXの推進」によりさらにICT活用の充実が反映していると考えられる。学校公開期間などでは、授業の参観時に生徒が主体的に学習に取り組む場面を見ることができた。

このような結果を受けて、主体的・対話的な深い学びとなるように授業力向上を図りながら、個に応じた教育の推進等に注力し、主体的・対話的な深い学びにつながっていくように、わかりやすい授業の実現につなげていってもらいたい。そのような授業力向上に向けた学校全体の取組から、教職員の授業工夫への意欲や意識の変化が見られ、せたがや探究的な学びの推進につながっていくことを期待している。

2 生活指導について

生徒評価「学校での過ごし方やルールについて考えて行動している」93%

保護者評価「学校での過ごし方やルールについて子どもに考え方せる指導をしている。」70%が肯定的な評価である。

生徒の規範意識や教員の生徒指導のあり方については一定の評価を得ている、ということができ、日頃の安全指導、生活指導が効果を上げていると考えられる。今後も、生徒に寄り添い、彼らの自主的な行動や他に対する思いやり、責任感の向上につながる生徒指導を進めていただきたい。また、校則等に関しても、生徒が主体となって、作り出す環境作りを検討する等して、本校の教育目標である「自主・自律」に向けた学校の継続的な指導を望んでいる。

3 学校行事について

生徒評価「学校行事は楽しい」94%

保護者評価「学校行事は、子どもにとって楽しい」86%が肯定的な評価である。

体育祭や音楽祭等は、生徒が主体となり問題解決にあたる「せたがや探究的な学び」の取組として評価できる。各行事における生徒の変容・葛藤等の対応には、苦労される場面もあるかと思われるが、今後も生徒の意欲や達成感が高まり、生徒ファーストの教育活動となるように、企画・運営に創意工夫を凝らし、教職員が一丸となって取り組んでいただきたい。

4 進路指導（キャリア教育）について

生徒評価「学校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している。」81%

保護者評価「本校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している。」58%が肯定的な評価である。

今年度は、職場体験において、これまでの取組により、事業者からの感謝の意が示され、記念品の寄与が行われた。また、平和学習や移動教室、校外学習等で将来を見通したキャリア教育をより多く進め、三者面談時のキャリアパスポートによる振り返り等を通して、生徒が将来への見通しができるような工夫がなされていた。

次年度も、さらなる工夫を凝らし、保護者や地域と一体となった、計画的な進路指導（キャリア・未来デザイン教育）の充実に取り組んでもらいたい。進路関係の情報提供については、すぐる配信やホームページを活用して、取り組んでいることがわかる。上祖師谷中学校の学区域では、ボランティア活動の理解やこれまでの実績があるので、小中学校の連携での活動を中心としながら、積極的に参加を促していくことが社会性の育成につながっていくので、今度も継続的な活動の支援を期待している。

本校のキャリア教育の項目に関して、昨年度に引き続き、20%台の保護者が「わからない」という結果がでており、課題となっている。上祖師谷中の特色ある教育活動が保護者や地域に十分に伝わるように上述した発信の工夫・改善に力を入れ、取り組んでいってもらいたい。

5 教職員（先生）について

生徒評価「先生たちは、生徒に分かりやすく指導している。」92%

保護者評価「本校は、丁寧に指導している。」73%が肯定的な評価である。

「学校生活が楽しい、先生はわかりやすく指導している」という項目について、約9割の生徒が肯定的にとらえているが、一方で、**生徒評価「先生たちは生徒が相談しやすい」生徒評価71%**はとなっている。昨年度の65%から向上しているものの、両項目が同程度の評価を得たいところである。要因の1つとして、教員の多忙化があげられるが、働き方改革の流れの中で、多くのスタッフを活用し、生徒に寄り添う教育活動をより推進していただきたい。学校としては、都、区からの年3回の学校生活アンケートのほかに学校独自で月一回の学校生活アンケートを実施し、生徒が相談しやすい機会を設けている。このようなアンケートを活用して、余裕をもって、生徒の小さな変化にも細かな対応していくことを期待している。

6 学校運営について

生徒評価「学校生活が楽しい」90%、「学校行事は達成感がある」81%

保護者評価「本校の学校生活は、子どもにとって楽しい。」80%と肯定的な数値を示している。

生徒が楽しいと思える活動を教職員が一丸となり創意工夫をして運営していることがわかる。この「学校生活が楽しい」、「学校行事は達成感がある」という項目は、生徒の学びへの意欲・仲間との絆に直結する極めて重要な内容である。改めて、学校生活や行事に対する教職員の努力には、感謝の意を表したい。授業時数等の兼ね合いの中で、工夫を凝らしていくことは容易ではないと思われるが、今後も生徒の学校生活の充実のための努力をお願いしたい。

保護者評価「本校は、近隣の(幼稚園)小・中学校で構成する「学び舎」の(幼稚園)小学校に行ったり、(幼児)小学生が来たりする機会がある。」52%と肯定的な数値を示しており、他の項目と比べると低い数字となっている。温知学舎としての小中連携の実践が、十分に伝わっていないのは課題である。実際には、ボランティア活動を通しての交流、授業研究、部活動体験といった活動を行っているので、多くの保護者に伝わるように関心を高める工夫を行い、学校組織として活気ある学校づくりを推進していってほしい。

7 部活動について

生徒評価「部活動は、楽しい。」82%、「部活動は、達成感がある」77%

保護者評価「部活動は、子どもにとって楽しい。」73%が肯定的な評価である。

校舎改修工事により活動場所が制限される中で、昨年に引き続き、水泳、テニス、サッカー、野球部が各大会で好成績を残している。また、校外においても、野球部の生徒が、目が不自由な児童に対して、寄り添い、自宅近くまで送り届けたことで、その保護者から学校に感謝の連絡が入ったと聞いている。このような善行が行われた背景には、部活の担当教員が、勝敗や技能の向上だけにこだわらず、普段の活動を通して、人間関係の構築や自己有用感の向上に留意していることがあげられる。文化部も様々な作品を出展したり、区が主催する百人一首大会へ積極的に参加したりするなど、活躍の場面が増えている。加えて、烏山地区の中学生のつどいでは、主張大会への参加や本格的な技術部の動画作品が披露されるなど、多用な中、生徒の活動を献身的に支援していただいている先生方に、本当に感謝している。

8 学校からの情報提供について

保護者評価「学校・学年だよりなどで、保護者に情報を提供している」85%が肯定的な評価である。

ホームページや連絡メール「すぐーる」を活用し、保護者へ直接配信することで、オンラインで、子どもたちの様子が把握できるといったことが、評価につながっていることがわかる。活動中の多用な中での先生方の努力に感謝している。このような丁寧な広報活動は、多用さから公開授業などを見ることができない一定の保護者からは、日々の授業の様子が随時掲載されることで学校の様子を知ることができ、助かっているという声もあがっている。一方で、先にあげたアンケートの回収率からすると、保護者全体の関心度を高めることが必要であるため、よりわかりやすい情報公開に努め、学校の教育活動を広く保護者や地域社会に発信してほしい。

9 地域との連携について

昨年度に引き続き、地域行事で生徒が活躍する場面をたくさん見ることができた。9月には地域連携を深める取組「避難所運営訓練」を近隣町会や上祖師谷まちづくりセンターの方と共に実施したこと、より地域との連携が密になったと考えている。この活動は、1学年とI組が、学校の授業として取り組んでいるもので、そのような実施形態は、世田谷区内では、上祖師谷中学校のみと聞いており、地域の中で育つ子どもたちの活動として、高く評価される。また、今年度も生徒ボランティア活動では烏山地区の活動や小学校運動会のボランティアなどに積極的に取り組んだことで、生徒の主体性の向上につながっている。今後も、地域コーディネーター等の地域人材を活用しながら、学校と地域が連携を深めていくことを望んでいる。

10 学校の安全性について

保護者評価「本校は、子どもにとって安全である」72%、「本校は、避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている」85%、地域評価「学校は、安心・安全な学校づくりを進めている」88%が肯定的な評価である。

定期的な避難訓練や避難所運営訓練などを生徒が経験することで、保護者・地域の「安全」に対する安心感が向上し、高い支持率につながっている。近年、SNSのトラブルが後を絶えない状況の中で、セーフティ教室やネットリテラシー講座などを活用してデジタルシチズンシップ教育の推進を図ってもらいたい。SNSの問題は家庭と連携して進めていく必要があるため、学校には保護者と共に学ぶ機会を多く提供してもらいたい。

〈おわりに〉

今年度も「せたがや探究的な学び」を推進していく中で、教職員は「授業力向上プロジェクト」として校内で組織的に研修し、指導力の向上に努めていると伺っている。現在、求められているICTを活用した授業改善、評価についての研修をさらに進め、世田谷区が推進している授業方針・改善プランを実践することを通して、学び続ける生徒の育成にあたっていただきたい。

本校では、よりよく楽しい学校生活・友達づくりのためのアンケート「WEBQU」を重要視しており、実施・活用することで、生徒の心のケアを第一に考え、不登校やいじめ防止、豊かな人間関係づくりを目指している。また、いじめ防止プログラムも継続的に実施されており、QU調査の結果分析やいじめ防止プログラムによる学習から、よりよい集団づくりに取り組んでいる。さらに、特別支援コーディネーターを中心に包括支援員、特別支援教室専門員、スクールカウンセラー等を組織的に配置・活用することで、個に応じた指導を適切に進めている。このことが不登校生徒数を減少につながっていると考えられる。また、別室指導のきめ細かく行っていることから、今後も、誰一人取り残さない、個に寄り添った教育にあたってもらいたい。

昨今、教育DXの推進が求められる中で、本校では、ICT教育に優れている教員を中心に教職員全体でICT活用に努め、タブレットを活用した授業が定着してきたが、個別最適な学びや自己調整学習の実現に向けて、生徒が将来の人生設計の見通しをもてるよう「キャリア未来デザイン教育」を推進していただきたい。

また、来年度は学び舎としてICTの活用研究の推進を図り、「せたがや探究的な学び」の推進に力を入れ、今後もお互いの学校が隣接している利点を生かし、学習の過程や生徒指導の共有を行うなどして、さらなる工夫をしながら、児童・生徒・地域の交流を目指していただきたい。

最後に、本校では、年々多様化していく教育課題に向き合い、学校として組織的に取り組んでいる。「せたがや探究的な学び」についての研修や総合的な学習の時間における「平和学習」にも力を入れている。古川恵樹校長のリーダーシップのもとに、教職員が一丸となってこれらの活動に取り組み、創意工夫の奏で、質の高い教育の実現を目指していただきたい。